

つくば市の医療と介護のありたい姿 平成30年度第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会の委員意見を参考に作成

- 1 在宅生活を高齢者が送るための包括的なサービスの提供とそのための医療介護の多職種連携体制の構築  
(医師やケアマネなど、誰でも顔が見えて、腹を割って話せる関係づくりと関係者が共通の目標に向かって行く関係づくり。医療、介護、福祉に携わる人材育成の強化)
- 2 在宅生活を送る高齢者の看取りに向けた環境作り  
(本人や家族の在宅医療への理解や多職種のACPの理解)
- 3 高齢者施設の利用や入所による在宅生活以外の選択肢の提供  
(在宅生活の延長としての施設での生活、家族を助けるための施設利用)
- 4 医療介護関係多職種のスキルの向上によるマネジメント力の強化  
(医療、介護、リハビリテーション、薬剤、ファシリテーション、コミュニケーションなどのスキル向上)
- 5 社会活動を行い、介護予防の対象となる高齢者に対する地域での支え合いと介護サービスの機能分化  
(効果的なサービス提供とサービス機能の分化)
- 6 独居高齢者の見守りや認知症高齢者の早期対応による悪化の防止  
(支援が必要な独居や認知症の高齢者への行政・事業者・地域による支援)
- 7 医療介護サービスにつながらない高齢者を見つけるためのコミュニケーションの強化  
(医療介護サービスが必要な高齢者に対して、利用を進めるための地域内のコミュニケーション力の向上)